

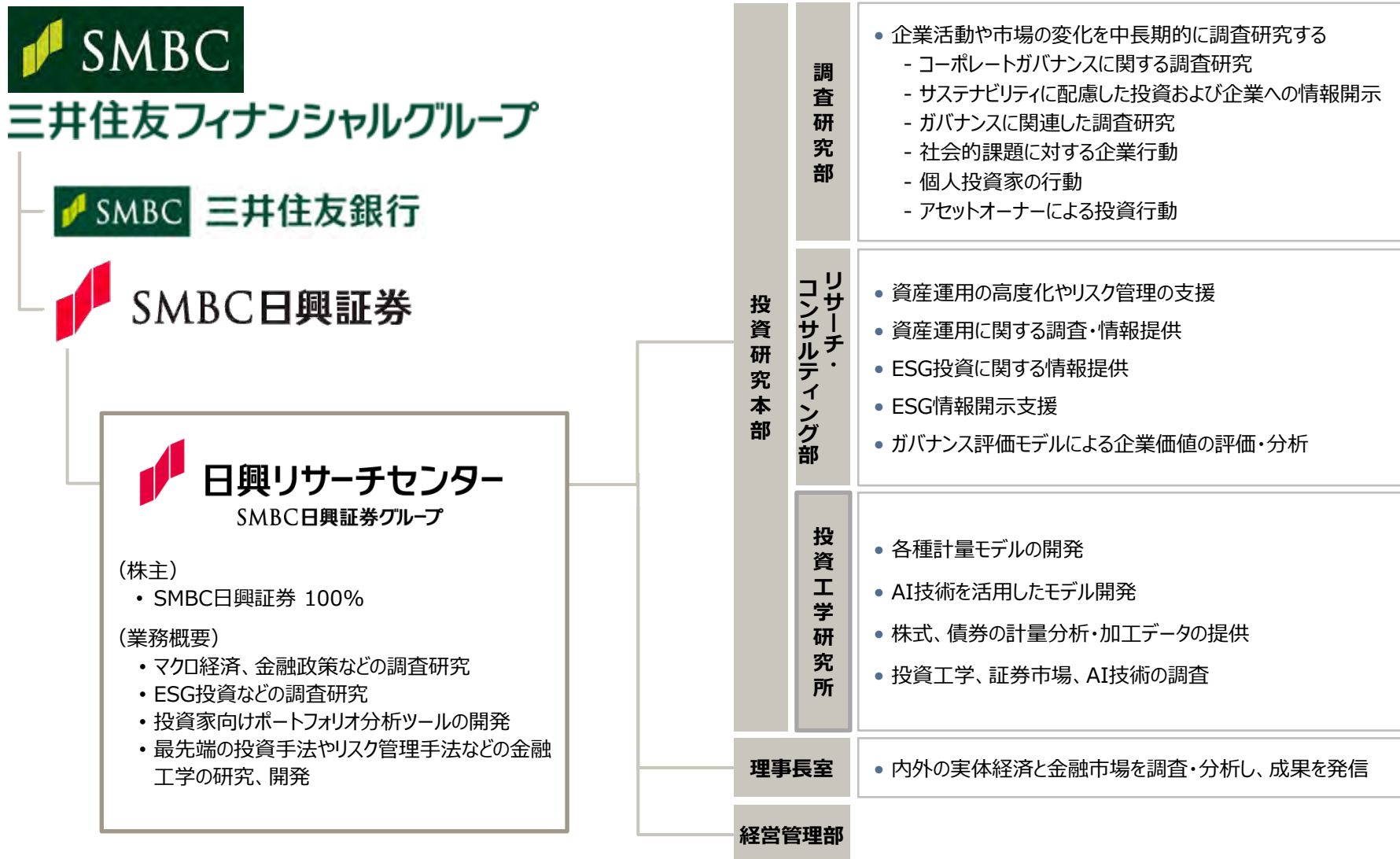
日興リサーチセンターの紹介

日興リサーチセンター株式会社
投資研究本部
調査研究部
投資工学研究所
リサーチ・コンサルティング部

2026年3月

日興リサーチセンターの概要

日興リサーチセンターは三井住友フィナンシャルグループのグループ会社でSMBC日興証券の子会社



ホームページ掲載レポート（直近） 1/2

年月	タイトル	執筆者
2026年2月9日	【Short Review】地方銀行における私募債の概況 – 金融商品の時価におけるレベル3に該当する社債の状況 –	森田 和喜 常泉 和也
2026年2月5日	日興リサーチレビュー別冊「生活者アンケート調査報告書（2025年）」	調査研究部
2025年12月24日	【ESG Clip】Global Impact Investing Network（GIIN）が「State of the Market 2025」を公表	後藤 孝輔
2025年12月18日	【Research Report】GRスコア2025の状況 –これまでのガバナンス改革を評価する –	杉浦 康之
2025年12月9日	【Short Review】“State and Trends of Carbon Pricing 2025”から見るカーボンプライシング施策の状況	常泉 和也
2025年10月30日	【Short Review】アセットオーナーによる生物多様性戦略	杉浦 康之
2025年10月10日	【AI Clip】スノーボールサンプリングを用いたネットワーク分析の紹介～Pythonによる銀行口座ネットワーク可視化を例に～	八木 稜太
2025年10月3日	【GX Clip】NGFSが「NGFS Short-Term Scenarios for central banks and supervisors」を公表	常泉 和也
2025年10月2日	【Short Review】顧客向けサービス業務利益からみる地方銀行の役務取引等収益	森田 和喜
2025年8月25日	【Short Review】TNFD提言に基づく日本企業の自然資本・生物多様性に関する開示状況調査	常泉 和也
2025年8月18日	【Short Review】取締役会等によるCEO選定に関する活動状況からみた取締役会の実効性の現状② ～ガバナンス体制の外形面の整備と開示情報の粒度との関係性～	三瓶 匡尚
2025年8月18日	【Short Review】取締役会等によるCEO選定に関する活動状況からみた取締役会の実効性の現状① ～CEO選定に係る情報開示の現状～	三瓶 匡尚
2025年7月31日	【ESG Clip】GSG Impact JAPAN National Partner（旧称：GSG国内諮問委員会）が「日本におけるインパクト投資の現状と課題 -2024年度調査-」を公表	後藤 孝輔
2025年7月31日	【Research Report】取引所及び政策当局によるコーポレートガバナンス改革に対する市場の評価 – 取締役会の実効性指標を用いた株式パフォーマンスからの考察 –	杉浦 康之
2025年6月26日	【Short Review】年代別の情報収集チャネルの違いと情報収集に潜むリスク	森田 和喜
2025年6月12日	【Short Review】投資家視点での統合報告書の評価結果～2024年度～	司 淳・松木 健志・ 後藤 孝輔・杉浦 康之・山本 直紀

ホームページ掲載レポート（直近） 2/2

年月	タイトル	執筆者
2025年4月21日	【Short Review】わが国企業の温室効果ガス排出削減に対するコーポレートガバナンスの取組み - Climate GRスコアによる状況 -	司 淳
2025年4月14日	【Research Report】有価証券報告書において「サステナビリティに関する考え方及び取組」の記載欄が新設された効果 ~ ChatGPTを用いたESG関連単語の抽出と集計 ~	常泉 和也 川崎 正勝 杉浦 康之
2025年3月24日	【ALM Clip】預金および貸出金を巡る環境~2006、07年利上げ時との比較~	武田 泰典
2025年3月24日	【ALM Clip】預金業務の高度化	武田 泰典
2025年3月24日	【ALM Clip】ネット銀行拡大の背景を探る	武田 泰典
2025年3月18日	【Research Report】取締役会の実効性に係る開示情報の現状分析 ~開示資料から読み取れる取締役会の責務等の発揮の現状について~	三瓶 匡尚
2025年3月13日	【ALM Clip】住宅ローンの返済と資産運用	森田 和喜
2025年3月3日	【Short Review】将来の排出量取引の取引価格に関する簡便な計算方法の提案	本山 真
2025年2月25日	【ESG Clip】GIINが「GIIN-Sizing the Impact Investing Market-2024」を公表	後藤 孝輔
2025年1月29日	【ALM Clip】長期投資、積立投資、分散投資の利点	森田 和喜
2025年1月29日	【Research Report】気候変動が日本の米生産に及ぼす影響の分析	常泉 和也
2024年12月20日	【ESG Clip】国内生命保険会社のESGテーマ型投融資について	伊賀 斉
2024年11月25日	【Short Review】国内公的年金等14主体が公表したアセットオーナー・プリンシプルに関する取組方針について	伊賀 斉
2024年10月30日	【Research Report】GR スコア2024 の状況 —「コーポレートガバナンス改革の実践に向けたアクション・プログラム2024」に関するスコア対象企業の実態—	杉浦 康之
2024年9月30日	【Short Review】日本におけるマルス・クローバック条項の導入状況~過去5年間の開示を踏まえた現状の整理~	松木 健志
2024年9月30日	【Short Review】取締役等に対するインセンティブ報酬の導入状況~過去5年間の開示を踏まえた現状の整理~	松木 健志

講演・研究発表等

年月	タイトル	主催者・掲載誌	発表者
2025年10月	ネット専用銀行拡大の背景と預金獲得強化に向けた地域金融機関の今後の取組み	全国地方銀行協会	武田 泰典
2025年10月	適時開示テキスト埋め込みを用いたイベントスタディにおける累積異常リターンへの予測	人工知能学会 SIGFIN第35回	伊藤 央峻
2025年3月	経営者は何を語るのか －統合報告書におけるトップメッセージのトピックとその利用可能性－	日本経営財務研究学会 東日本部会	杉浦 康之
2025年1月	SMBC Group: Sustainable Finance Course Carbon Pricing and GX Promotion Strategy	一橋大学ICS	松浦 弘和(SMBC日興 クオンツ部と共同)
2024年10月	CO2排出権ボラティリティによる価格変動の予見性	人工知能学会 SIGFIN第33回	二俣 新
2024年6月	わが国におけるインターナショナルカーボンプライシングの取組みとその傾向	一橋大学大学院	杉浦 康之
2024年6月	経営者は何を語るのか －統合報告書におけるトップメッセージのトピックとその利用可能性－	日本ファイナンス学会	杉浦 康之・川崎 正勝
2024年5月	「日本におけるサステナブルな個人投資家の未来」モデレーター	RI Japan 2024	杉浦 康之
2024年5月	LLAMA2を用いたカーボンプライシング関連論文の自動分類	人工知能学会 全国大会 第38回	伊藤 央峻
2024年5月	金融分野における大規模言語モデルの活用	人工知能学会 全国大会 第38回	伊藤 央峻
2024年4月	Deep dive into ESG trends, from innovation to risk mitigation	RepRisk	杉浦 康之
2024年2月	日本の企業金融と資本市場の役割：ガバナンス改革とESGの推進に向けて	一橋大学政策フォーラム	杉浦 康之
2023年11月	投資家の観点から見た企業の気候変動リスクへの対応	A-PLAT気候変動リスク産官学連携 ネットワーク公開シンポジウム	本山 真
2023年10月	BERTを用いたカーボンプライシング関連論文の分析	人工知能学会SIGFIN第31回	伊藤 央峻
2023年8月	地域銀行における取締役会ジェンダー多様性の効果	金融庁金融研究センター	杉浦 康之（武蔵大学 中嶋准教授との共著）
2023年7月	ESG投資の実情と展望	東京成徳大学	杉浦 康之
2023年7月	わが国におけるインターナショナルカーボンプライシングの取組みとその傾向	一橋大学大学院	杉浦 康之
2023年5月	わが国におけるインターナショナルカーボンプライシングの導入と価格決定要因について	日本ファイナンス学会	杉浦 康之
2023年5月	地域銀行における取締役会ジェンダー多様性の効果	日本ファイナンス学会	杉浦 康之（武蔵大学 中嶋准教授との共著）
2023年5月	「サステナブルなビジネス実践のためのガバナンス再考」モデレーター	RI Japan 2023	杉浦 康之

国内外のESG投資に関する最先端の調査研究などを基に「日興リサーチレビュー」、「ブックレット」等を作成・発行し、専門的な情報を提供
 統合報告書分析を通じて環境・社会・ガバナンス等の分析・情報提供、アセット・アロケーション分析、リスク分析などを提供

ESG投資の調査研究 (調査研究部)

- 以下の状況等を踏まえ調査研究および情報を発信。
 - 経済社会は、政府・投資家・企業・消費者・取引先など多様なステークホルダーで構成される。
 - ステークホルダーは異なる価値観を持ちながらも、それらを共有・調整することで市場競争と経済発展が生まれている。
- 中長期的な視点から企業活動や市場における「価値観」の変化を捉え、それが「価値」へどのように影響を与えるかについて調査、研究。
- 社会的な規範や市場の価値基準は常に変化しており、それに伴い「価値」もまた変化し続けています。私たちはこの「価値観」を捉え、新たな「価値」を発見し、その情報を発信。

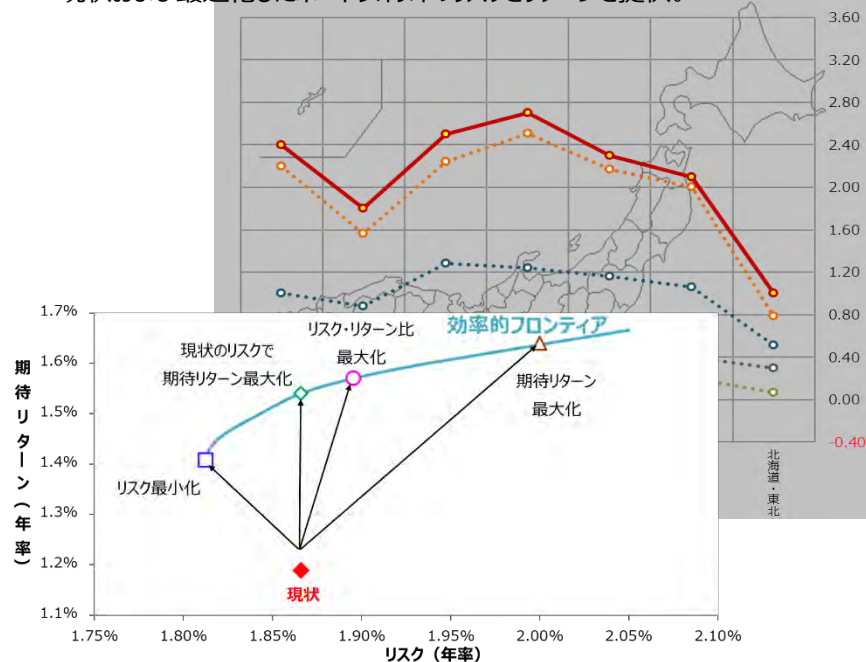


Signatory of:
 Principles for Responsible Investment

<https://www.unpri.org/>

統合報告分析、アセットアロケーション分析、利回り分析等 (リサーチ・コンサルティング部)

- ステークホルダーや機関投資家が求める非財務情報を調査する「ESGマテリアリティ調査」や、企業が作成する統合報告書を投資家の視点で評価する「統合報告分析」を提供。
- コーポレートガバナンス・コード導入以前よりガバナンスに関する調査研究を実施。2017年に日本企業のコーポレートガバナンスの取り組み状況を評価する「GRスコア」を開発し、取り組み状況を「GRレポート」で提供。
- お客様のポートフォリオについて最適化条件を満たす資産構成比を提案し、現状および最適化したポートフォリオのリスクとリターンを提供。



先端技術調査・研究・モデル開発・モデル提供までを一貫したプロセスで行い、イノベティブな研究開発を実現する

各種計量モデルの開発

- 投資理論と長年培った分析力で多様なニーズに応える
- 株式、債券の計量分析・加工データの提供
- 1980年代、金融資本市場は、自由化、国際化の進展によって急速に変貌を遂げ、科学的かつ戦略的な運用手法の開発ニーズが高まりました。そうした中、日本においても金融工学に基づいた新しい運用管理のニーズが高まり、1989年、**投資技術の理論研究や運用・評価モデル等の計量モデルの開発**を目的として投資工学研究所は設立されました。
- 当研究所は長期にわたり**証券市場の計量分析の分野において基礎研究**を積上げ、特に**ポートフォリオ理論、オプション理論**の実務への適用に関するクオンツ分析で高い評価を得ています。また、**証券市場分析に関するデータハンドリング**に強みがあり、長年にわたる機関投資家向けの情報提供などで培った独自のノウハウを蓄積しています。更に、**統計分析、シミュレーション**などの高度なプログラミングスキルを有し、証券統合データベースを広範に駆使する分析力があります。
- ▶ 1990年代はニューラルネットを用い債券格付や倒産確率モデルを構築

AI技術を活用したモデル開発

- **AI技術の調査・研究**を行い投資工学や証券市場への活用を行う
- 当研究所は、大学との研究会等を通じ、**金融テキストマイニング等の金融分野におけるAI技術の基礎研究**を行うとともに、得られた**研究成果を当社ウェブサイトや人工知能学会などにおいて発表**しています。また、これらの研究成果と長年培った分析力を融合させることにより、資産運用に役立つ情報提供や分析ツールの研究・開発を行っています。
- 新しい金融商品や取引手法、分析手法などの導入が進み、投資環境は日々進化しています。当研究所ではそうした進化に対応し、基礎研究の蓄積を活かして、より効果的かつ効率的な投資活動を支援するための情報提供や分析ツールの開発を目指してまいります。
- 特許取得 未来志向文抽出モデル (6615392号 2019年11月15日) 有価証券報告書等から重要な文章の抽出
- ▶ LLM等の調査・研究からモデル開発へ

- 商号 日興リサーチセンター株式会社
- 設立 1970年12月1日
- 資本金 10億5,021万円
- 株主 S M B C日興証券株式会社 100%
- 所在地 〒135-8532
東京都江東区木場1丁目5番55号
深川ギャザリア ウエスト1棟4階
Tel : 03-5677-7800 (代表)
Fax : 03-5677-7801
<https://www.nikko-research.co.jp/>
- 公的認定 金融商品取引業者 投資助言・代理業
登録番号 関東財務局長(金商)第915号
- 加入団体 一般社団法人 日本投資顧問業協会